

# 新版教科書 ここがイチオシ!

新しい魅力が詰まった、令和7年度版中学校『美術』教科書。編集委員の先生方のおすすめのページについて、ご紹介します。

## 1 中学3年間で必要な資料が別冊に

### 豊かな表現や鑑賞の実現に向けて、別冊『資料』を活用しよう

今回の光村の教科書の特筆すべき点は、これまで教科書の紙面に混在していた材料・用具や技法、参考資料などを、内容を充実させて別冊にまとめたことだと思います。

中学校の美術ではこれまで、「教員が説明するときや作品を制作する際に、生徒が手元で見たり、折に触れ振り返り確認したりできるものが必要」などの理由で、副教材として資料集を購入したり、教員が独自に資料を準備したりしてきました。しかし、別冊『資料』を活用すれば、その

ような負担がなくなります。中学3年間で必要な資料がこの1冊にまとまっているからです。教科書に準拠した資料が即座に活用できるのも、別冊ならではの利点といえるでしょう。

別冊『資料』では、前半に活用頻度の高い多様な材料・用具や表現技法などが紹介され、生徒の意欲を膨らませる工夫がされています。中盤は、ICTの活用を踏まえた写真や映像などのデジタル表現や、思考ツールで発想や構想を広げるためのページなどが構成されています。さらに後半は、美しい写真で構成された形や色彩、イメージなど、「造形的な視点」につながるページが展開さ

れています。どのページも彩り豊かで、生徒がやってみたい!とワクワクするつくりになっています。先生方には、ぜひ教科書と別冊『資料』、ICTを効果的に活用して、生徒たちの豊かな表現と鑑賞の実現に向けた授業を展開していただきたいと思います。



まつなが  
**松永かおり**  
全国造形教育連盟委員長  
東京都世田谷区立砧南中学校校長

都内公立中学校で美術科教員として勤務の後、東京都教育庁指導部指導主事、都内公立小学校副校長、東京都教職員研修センター統括指導主事、東京都教育庁指導部主任指導主事、同総務部教育政策担当課長を経て現職。光村図書中学校『美術』教科書編集委員。

### 3年間使用できるコンパクトな資料!

資料を別冊にすることで、3年間通して活用できるようにしました。冊子を折りたたむとコンパクトになるので、机の上に置いて参照しながら制作に取り組むことができます。



### 別冊『資料』 目次

#### 描く

- どうやって描く?
- 鉛筆で描く
- 水彩絵の具で描く
- アクリル絵の具で描く
- さまざまな描き方
- 版画で表す
- 文字をデザインする
- 端末を活用する

#### つくる

- どんな材料でつくる?
- 紙でつくる
- 粘土でつくる
- 木でつくる
- 金属でつくる
- 石でつくる

#### 写真

- 写真を撮影する

#### 映像

- 映像を制作する

#### 発想・構想

- 発想・構想のために

#### 形・色・光

- 自然の中の形・色・光

#### 色

- 色の世界に出会う
- 色の特徴
- 色の効果と配色
- 日本と世界の伝統色図鑑

大充実の  
全36  
ページ!

技法と色の資料動画が全47本!

### 技法動画がさらに使いやすい。

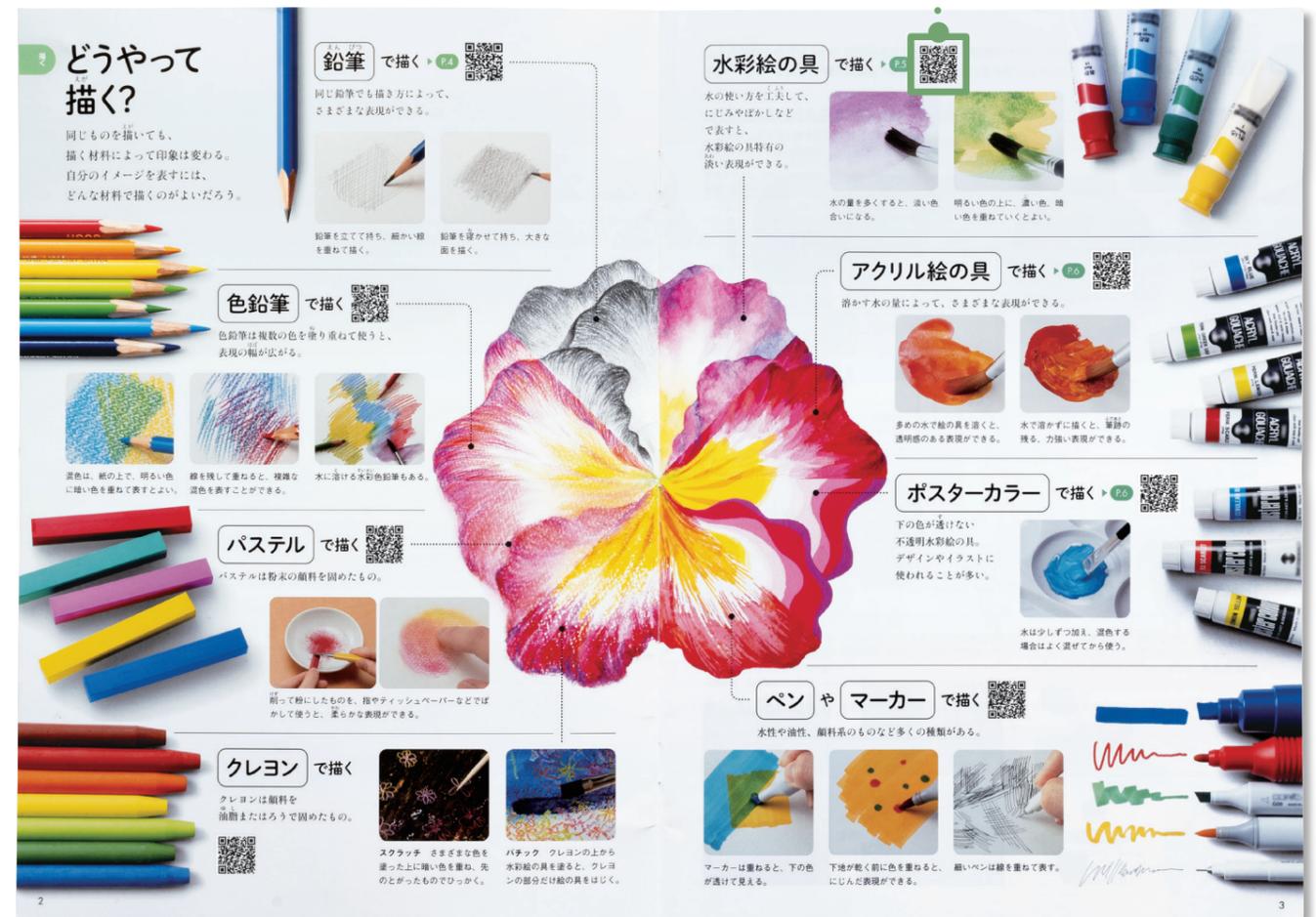
再生速度の変更や字幕のON/OFF\*を選ぶことができるので、生徒一人一人の学習ペースに沿ってご活用いただけます。

\*字幕が設定されている動画のみ。



水彩絵の具のいろいろな描き方

『美術1 資料』P.2~3



表現したいものに合わせて、生徒自身が描画材を選ぶことを促す導入ページ。中学校の美術で主に使われる8種類の描画材を紹介しています。

## 2 鑑賞を深める体感ミュージアム

教科書紙面とQRコンテンツで鑑賞を深める「体感ミュージアム」というページを1年と2・3年それぞれで新設しました。ここでは「明日の神話」(岡本太郎)を取り上げたページについてご紹介します。



おおたにしよご  
**大谷 省吾**  
東京国立近代美術館副館長

美術史家。1994年より東京国立近代美術館に勤務、2022年より現職。2011年には「生誕100年 岡本太郎展」の企画を担当した。著書に『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』がある。光村図書中学校『美術』教科書編集委員。

『美術2・3』P.24~25



『美術2・3』P.26



次のページでは作品の全図や制作風景の写真が掲載されており、作品についての理解を深めることができます。

### 体感ミュージアムで深まる鑑賞、岡本太郎の魅力を生徒たちに

岡本太郎について授業で教えるのは、実はとても難しいことです。なにせ本人が「今日の芸術は、うまくあってはいけない。きれいであってはならない。心地よくあってはならない」と主張した人でしたから。でも、彼のように世間の一般常識をぶち壊して、べらぼうなものをつくり続けた人がいたことを、生徒たちに知ってもらうことは大切です。そして彼の一目べらぼうな作品が、しっかりした思想的な「芯」をもっていたことにも、気づいてほしいと思います。

この「体感ミュージアム」は、まず渋谷駅を歩き交う人々を見下ろす「明日の神話」の写真によって、その巨大なスケール感を知るところから始まります。ページをめくると「作

者は、この作品にどんなメッセージを込めたのだろうか」と問いかけがあります。

ここで「書き込みツール」を使って、作品に描かれているものを生徒たちにどんどん書き込んでもらいましょう。すると「なぜ雲に目玉が?」「なぜ船に手足が?」のように疑問も出てくると思います。不思議に気づいて、自分なりの理由を考えてみることで、他の人はどう考えたかを知ること。それだけで鑑賞は深まるはずですよ。

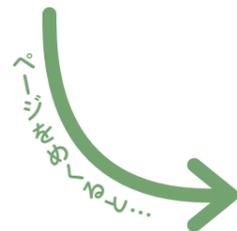
各自が疑問を抱いたところで動画コンテンツを見ると、制作意図や、作者自身について知ることができます。岡本太郎に初めて接する生徒たちにとって、動き、描き、語る彼の姿は強烈なインパクトを残すでしょう。さらに興味が生まれたら、ぜひ実物を訪ねてほしいですね。

「体感ミュージアム」は教科書全体で6か所に設けています。

- 「ムーランド・ラ・ギャレットの舞踏場」(『美術1』P.20~21)
- 「風神・雷神像」「風神雷神図屏風」(『美術1』P.36~43)
- 「火焰型土器」(『美術1』P.58~59)
- 「最後の晩餐」(『美術2・3』P.12~15)
- 「明日の神話」(『美術2・3』P.24~26)
- 「ゲルニカ」(『美術2・3』P.60~67)

### ダイナミックな見開き図版

岡本太郎の代表作「明日の神話」を見開き2ページで大きく掲載。作品の大きさや展示風景を生徒が実感できるような図版を選びました。



### 作品を体感できるQRコンテンツ

紙面に掲載されているQRコードから、作品を体感的に鑑賞することができる多彩なコンテンツを視聴することができます。

#### 解説動画「明日の神話・太陽の塔」



代表作「明日の神話」と「太陽の塔」について、詳細に解説しています。

#### 解説動画「岡本太郎」



岡本太郎が制作した作品、制作の様子など豊富な資料を1本の動画にまとめました。

#### 鑑賞を広げる言葉集

### 鑑賞を広げる言葉集

●印象を表す言葉  
衝動的、魅力的、印象的、象徴的、幻想的、神秘的、情緒的、抽象的、具象的、写實的、裝飾的、革新的、画期的、効果的、繊細、緻密、大胆、強烈、荒々しい、力強い、弱々しい、淡い、すがすがしい、いかめしい、伸びやか、奥深い、静か、にぎやか、はなやか、鮮やか、素朴、明快、堂々とした、洗練された、ダイナミック

美術でよく使用される言葉をまとめた資料をご用意しました。

#### 書き込みツール&高精細画像

### 書き込んで鑑賞を深める

高精細の作品画像が手元の端末に。線や吹き出しを用いて、生徒が気づきを自由に書き込んだり、拡大縮小機能を用いて細部までじっくり鑑賞したりすることができます。



「書き込みツール&高精細画像」の画面

「書き込みツール&高精細画像」はこちらからお試いただけます。



# 3 人気の日本美術を大特集! 「日本の絵画を楽しむ 五つのキーワード」

中学生に見てほしい人気の日本の絵画を集め、16ページにわたって特集しました。  
和紙の質感に近い用紙に印刷しています。

## キーワードから読み解く、 日本絵画のおもしろさ

日本美術が日常生活から消えてしまった現在、せめて日本絵画のおもしろさを中学生にどうすれば伝えられるだろうかと考え、つくってみたのが「日本の絵画を楽しむ 五つのキーワード」の特集です。他の洋紙ページとの差別化を図るため、和紙風の紙に印刷するという凝りようです。そして、日本絵画の魅力を「四季」「動物」「不思議」「余白」「構図」の五つのキーワードで見せる工夫をしました。

「四季」では、春夏秋冬を感覚的に実感できるもの。例えば、山間の溪流の音や涼しさを伝える絵や、雪の日の寒さと雪の白の美しさを伝える絵を紹介しました。

「動物」では、巨大な虎が描かれた襖を。どう見ても猫のようなコミカ

ルな虎です。「鳥獣人物戯画」では、蛙が自分より大きな兎を投げ飛ばし、怪気炎を吐く場面を掲載しました。この目に見えない怪気炎を線で表したところに、現代の漫画に通ずる表現があります。

「不思議」では、人体を組み合わせて一つの顔をつくってみせた絵や、提灯が幽霊の顔になっている絵を。生徒の興味を引くのではないのでしょうか。

「余白」では、墨の濃淡だけで霧に煙る松林を描いたものや、金屏風にかきつばた燕子花をリズムカルに配置したものを紹介しました。

「構図」では、ゴッホも驚いた広重の版画、近景を巨大化した絵や、遠景の富士が巨大に見える絵を紹介しています。

これらによって、日本絵画の奇抜な発想に気づいてほしいと思います。



やすむらとしのぶ  
**安村敏信**  
北斎館館長  
静嘉堂文庫美術館館長

日本美術史家。1979年より板橋区立美術館勤務。2005年に館長に就任し、2013年に退職。2017年より北斎館館長、2023年より静嘉堂文庫美術館館長。近著に『若冲VS応挙』、『ARTBOX ゆるかわ妖怪絵』など。光村図書中学校・高等学校『美術』編集委員。

## 多様な日本絵画を五つのキーワードに沿って掲載!

- その一 ◆ **四季**  
「醍醐」(奥村土牛)  
「夏秋溪流図屏風」(鈴木其一)  
「紅葉」(横山大観)  
「東京」(千景芝増上寺)  
「川瀬」(水)
- その二 ◆ **動物**  
「虎図襖」(長沢芦雪)  
「仔犬」(中村芳中)  
「鳥獣人物戯画甲巻」  
「動植綵絵 群鶏図」(伊藤若冲)
- その三 ◆ **不思議**  
「みかけはこぼろがとんだい、人だ」(歌川国芳)  
「百物語 お岩さん」(葛飾北斎)  
「百鬼夜行絵巻」
- その四 ◆ **余白**  
「松林図屏風」(長谷川等伯)  
「秋草図屏風」(依屋宗雪)  
「燕子花図屏風」(尾形光琳)  
「八橋時絵螺鈿 硯箱」(尾形光琳)
- その五 ◆ **構図**  
「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」(歌川広重)  
「初夏の海」(赤翡翠) (田中一村)  
「山」(富士山) (片岡球子)  
「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(葛飾北斎)

屏風は両隻  
を掲載。  
余白の美しさを  
じっくり鑑賞  
できます。

### その四 ◆ 余白

**空気感**

松林図屏風 紙本墨画、六曲一双 各156.8×356cm  
16世紀(安土桃山時代) 東京国立博物館蔵 長谷川等伯(1539~1610)  
余白と墨のグラデーションを効果的に使い、もやに包まれた松林の空気感や遠近感を表現した。

光の当たり方で印象が変わるね。

余白に美を見いだすのは、日本の絵画の特徴だ。

全体的に明るい光を当てたときの様子。

夕暮れのような光を当てたときの様子。

**デザイン性**

八橋時絵螺鈿 硯箱  
木漆 高さ14.2cm  
18世紀(江戸時代) 東京国立博物館蔵  
尾形光琳[1658~1716]  
平安時代に書かれた『伊勢物語』の一場面を表した硯箱。黒と金銀の対比が印象的だ。

光琳は、優れたデザインセンスをもっていたんだ。工芸品も多く残っているよ。

燕子花図屏風 紙本金地箔色、六曲一双 各151.2×358.8cm  
18世紀(江戸時代) 横津美術館蔵(東京都) 尾形光琳  
花の配置に注目しよう。ジグザグ状に描かれ、右翼では花を画面の高い位置に、左翼では低く斜めに配置されている。それにより、リズム感や空間的な広がりが生み出されている。



『美術2・3』P.36~37  
「余白」という  
キーワードで屏風作品を  
紹介。